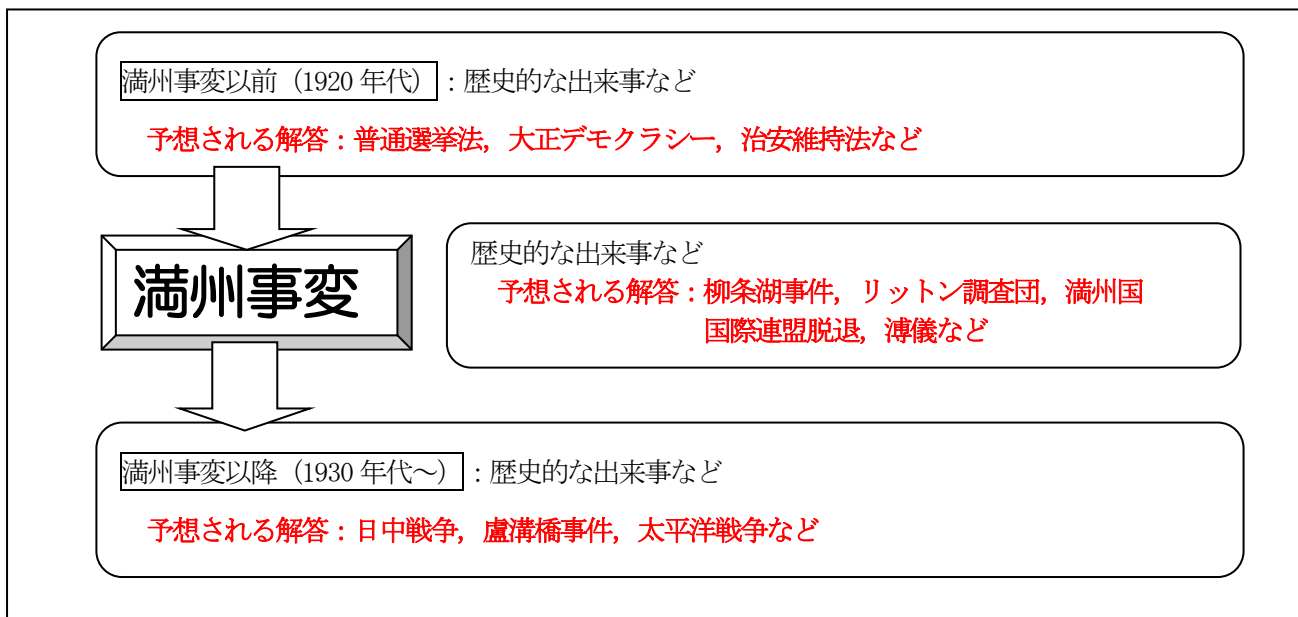


教材・資料編

1 「ワークシート」

(1) 指導計画①

問1 「満州事変のイメージは？」 *中学校の内容や既習内容を振り返ろう！！



問2 「満州事変に関する資料を読み解こう～ 日本の反応～」

*資料を読み、それぞれ内容について簡単に書き出そう！！

最後は、グループで話し合い「**One question(一つの疑問)**」をボードにまとめよう！！

- ①東京朝日新聞 → 予想される解答: 軍備拡大への批判, 国民の負担軽減を主張。
- ②東京朝日新聞 → 予想される解答: 軍部が戦争を煽っていることへの批判。
- ③福岡日日新聞 → 予想される解答: 中国軍が一方的に満鉄を破壊。
- ④横浜貿易新報 → 予想される解答: 日本軍は蒋介石を相手にしないと主張。張学良と交渉すると軍が主張。
- ⑤赤旗 → 予想される解答: 多くの新聞が中国の横暴だと主張しているが嘘だ。
- ⑥大阪朝日新聞 → 予想される解答: 満州国の建国は、極東平和にとって重要だ。

One question(一つの疑問) なぜ～なのか? → 考えられる理由とは?

予想される解答: なぜ軍部を批判していた新聞が、事変後に軍の行動に賛同したのか?
→ 満州への進出が日本の国益になると考えたため。

【振り返り】「今日の授業を通じて、感じたことや疑問に思ったことを書こう」

*最後は、グループで一つ「**One question(一つの疑問)**」をボードに書こう！！

感じたこと

予想される解答：新聞報道が満州事変を境に大きく変化したことに驚いた。

本日の **One question(一つの疑問)** なぜ～なのか？ (次回への課題)

予想される解答：なぜ、多くのマスメディアが満州事変を肯定的にとらえたのか？

(2) 指導計画②

問3 「満州事変に関する資料を読み解こう～ 欧米の反応 ～」

*資料を読み、それぞれ内容について簡単に書き出そう！！

最後は、グループで話し合い「**One question(一つの疑問)**」をボードにまとめよう！！

- ①フランスの反応 →予想される解答：日本はアジアにおいて重要な役割を果たしている。
野蛮な無政府主義や共産主義に対抗できる。
- ②イギリスの反応 →予想される解答：中国の身勝手な振る舞いに対し、日本が教えた。
- ③アメリカの反応 →予想される解答：アメリカ政府として、日本の行動は容認できない。

One question(一つの疑問) なぜ～なのか？ → 考えられる理由とは？

予想される解答：なぜ、満州事変に対して欧米諸国で対応が違ったのか？
→ アジアにおける各国の利権をめぐる見解の違いがあったため。

問4 「なぜ日本は、満州事変に踏み切ったのか？」

*前回と今回の内容を踏まえ、考えられることを書き出そう。

最後は、グループで話し合い「**One conclusion(一つの結論)**」をボードにまとめよう！！

予想される解答：日本の軍事行動に対して、欧米諸国に肯定的な意見があったため。

One conclusion(一つの結論) ～だから・・・だ！ ←

予想される解答：欧米諸国の足並みがそろわない中、領土拡大の契機ととらえたから。

【今回の振り返り】「今回の授業を通じて、感じたことや疑問に思ったことを書こう」

*最後は、グループで話し合い「**One question(一つの疑問)**」をボードにまとめよう！！

感じたこと (今までとの捉え方の変化)

予想される解答：リットン調査団の報告やそれに伴う日本の国際連盟脱退を考えると、軍事行動について国際社会から強く批判されたと思っていたが、今回の授業を通じて、欧米諸国の反応はさまざま好意的にとらえているところもあったことが分かった。その上で、日本の新聞報道も満州事変を契機に軍の行動を容認するような報道に変わっていったのではないかと感じた。

本日の **One question(一つの疑問)**なぜ～なのか？ (他に考えられる立場はないか?)

予想される解答：アジア諸国は、どのように見ていたのか？

2 「提示資料」

日本の反応

東京朝日新聞（1930年5月25日付）

「一国の軍備充実は、他国に対する脅威であり、軍備競争の禍因である。これにより自他無脅威軍備を標準として締結した条約上の平衡状態を動かすが如きは、軍縮会議の効果を無にするものである。国民が負担の軽減を欲するや切にして、国力の涵養を望むや年久しい。この機会を再び逸して、海軍の主張に屈して、政府がこの実質的問題において、軍部に譲歩したならば統帥権問題よりも切実に国民の心は動くであろう。政府が腹を決めたのが統帥権の問題に止まらずして、軍費縮減による国民負担軽減において、更に大なる責任を感じ覚悟を決めんことを希うのである。」

大阪朝日新聞（1930年8月8日付）

「すくなくとも国民の納得するような戦争の脅威がどこからも迫っているわけでもないのに、軍部はいまにも戦争が始まるかのような必要を越えた宣伝に努めている。なるほど満蒙問題は決して穏やかではないが、しかしその権益を保護するに、武力がいったいどの程度役立つかを、考え直してみる必要がある」

福岡日日新聞（1931年9月19日付・9月24日付）

「暴戾なる支那軍は満鉄線を破壊し我が守備兵を襲ひ駆けつけたる我が守備隊一部と衝突せり」
「幣原氏の所謂平和外交なるものが、心細く、無為であるかを知る以外に、能く平和を信じて、国際的共存共栄を楽しむことはできない」

横浜貿易新報（1931年9月26日付）

陸軍の方針：（1）事変は地方の一事件で、蒋介石率いる国民党による南京政府は交渉相手ではない。
（2）蔣に合流し北京にいた張学良に奉天への帰還を促し、交渉相手とする。
（3）張が戻らない場合は新たな政権の推移を見守る。

赤旗（1931年10月5日付）

「ブルジョア新聞、雑誌は口を揃へて、今度の戦争の『原因』を支那兵の『横暴』『日本を馬鹿にした態度』等々に見出してゐる。そして満鉄の一部の破壊を以て『事変の原因』と決めてゐる。然しながらそれは全然虚偽（ママ）である。真の原因は日本帝国主義者が当面してゐる危機を切抜ける為に新しい領土路奪の為の戦争を準備してゐたところにある」

大阪朝日新聞（1932年10月1日付）

「（満州に）一新独立国を建設することは、更に国際戦争の惨禍を免れるゆえんであつて、極東平和の基礎を一層強固にするものでなければならぬ。吾人はこの意味において、満州に独立国の生れ出ることについては歓迎こそすれ反対すべき理由はないと信ずるものである」

*記事の一部抜粋もしくは要約したものを掲載

各国の反応

フランスの反応 (フランスの新聞『ル・タンブ』 1931年11月21日付)

「文明国にして、戦争の際のわれわれの忠実な同盟国である日本は、世界の東方にあって、野蛮な無政府主義に対して社会的秩序と平和を象徴し、守っている唯一の国である。またボルシェヴィズム（共産主義）の血なまぐさい波の行く手をさえぎる力を持っている唯一の国である。その日本は、われわれフランス人にとって、われわれのインドシナを守る城壁の一つとなっている」

イギリスの反応 (イギリス駐日大使 サー・フランシス・リンドレー)

「ウィルソンの民族自決主義や国際連盟の誕生は、新興の国家のみならず、中国やペルシャのような遅れた国々にも、思いのままふるまっても一九一四年以前のような結果を招くことはないという考えを抱かせるようになった。つまり世界は、決闘は違法だとされたものの、国民はまだそれに代わる適当な方法を学んでいない国のような状態にあるのである。日本人はいかに高圧的だとはいえ、少なくとも中国に対して、そのような身勝手なふるまいは依然不愉快な結果をもたらすものだ、ということを教えてやったのだ」

アメリカの反応 (スティムソン・ドクトリン 1932年1月7日付)

「錦州における最近の軍事作戦により、1931年9月18日以前に存在し、南満州における中華民国政府の最後に残っていた現地当局は壊滅させられました。アメリカ政府は、日本と中国の間にある諸困難の種を究極的に解決すべく推進している国際連盟理事会によって、最近承認された中立的介入努力について引き続いて自信をもってはいます。しかしながら現下の情勢およびその中にある諸権利及び諸義務に鑑み、アメリカ政府は、日本帝国政府と中華民国政府の双方に対して、以下のように通知することが義務であると勘考しております。すなわち。アメリカ合衆国の条約上の諸権利あるいは中国におけるアメリカ市民の諸権利、これには主権あるいは独立、中華民国の領土的所有あるいは行政的統一性などを含み、一般に門戸開放政策として知られる諸権利のことを指していますが、諸権利を損なうような両国政府（日本政府と中華民国政府のこと）あるいはその仲介者によるいかなる条約や合意を認めることはできませんし、既成事実によって作られたいかなる状況の合法性も承認することはできません。また1928年8月27日に締結されたパリ平和条約、これは中国も日本もアメリカも締結国であります。国際連盟の定める義務及び盟約に反するいかなる状況、条約、合意も承認する意図はありません。」